

子ども司書新聞

第21号

11月4日発行

めざせ！本のお医者さん

11月4日に第2期子ども司書養成講座の第8回の講義が行われました。テーマは「本はどうやってできているの?」「めざせ！本のお医者さん」です。前半は製本の工程など本がどうやってできているのか、本の仕組みはどうなっているのか、本の部分の名前などを学びました。後半は本のお医者さんになる、つまり、本の修理の方法を学びました。必要な道具やページがやぶれたときはどうするのか、ページがはずれたときは?のどがわれたときは?背タイトルが見えなくなったときは?と、いくつかの修理のパターンを学び、実際に市内のある小学校で修理が必要だけど、修理する人がいなく、そのまま貸出されてボロボロになっていた本を修理しました。



参加した受講生は「いろいろな人の手で本がつくられていることがわかった」、「のどわれを治したが、ちゃんとくっついているか心配」などの感想をもったようです。

のりで修理した本は半日から1日おく必要があるのできちんと修理できているかは次回のお楽しみとなります。ちゃんと修理できたかな?

「子ども司書によるこどものためのおはなし会」開さいのお知らせ

日時：平成30年1月20日(土)午後1時30分から

場所：市立図書館2階おはなしの部屋

第1期生と第2期生によるおはなし会です。

第2期生は五所川原子ども司書認定後、初めての活動になります。ぜひ、聞きにきてね!

第9回

11月18日(土)

本を紹介してみよう

今日はなんの日?

今日は小説家の泉鏡花(いずみきょうか)が生まれた日です。代表作は僧侶の不思議な体験を書いた「高野聖(こうやひじり)」。名前に「花」がついているが実は・・・。「きょうはこんな日365」より

<編集後記>

担当：下柵欄

図書館の本の修理の原則は「ゼロハンテープでなおさない」ことです。子ども司書のみんなには学校で先生やお友達にも教えてほしいなと思います。わたしも修理の勉強、がんばらなきゃ・・・。